

## 第二部 パネルディスカッション 「地方創生からはじめる宮古」

### 【モデレーター】

新田 義修（岩手県立大学地域連携本部副本部長）

### 【パネラー】

山本 正徳 氏（宮古市長）

鈴木 厚人（岩手県立大学長）

柴田 義孝（岩手県立大学副学長兼地域連携本部長）

植田 眞弘（宮古短期大学部長兼地域政策研究センター長）

【新田】 本日は「宮古で暮らす、未来をつくる」をテーマとしておりますが、まず市長の山本様から、今どのような事を考えて、宮古市は今後どの様な事をしていきたいのかという事を少しお話していただき、その後、議論に入りたいと思います。恐らく、その中にキーワードが色々出てくると思いますので、自分が市長であったらどう考えるのか、あるいはその立場に立った場合に地域に対してどんなことが貢献できそうなのかという事をぜひ考えながら話を聞いていただければと思います。それでは、山本様、よろしく申し上げます。

【山本】 宮古市が今考えている事を少しお話させて頂きたいと思えます。

地方創生と言われ、今始まったような形で国は説明をしておりますが、実はこれは数十年前から日本全国様々な地方ですっと考えてきた事であり、それに対して取り組みをしてこなかった訳ではないと思います。そのような中でなぜ今、地方創生なのかという所が問題なのではないかと思っております。また、人口減少問題や財政状況等もあり「地方創生」

という言葉が加速的に大きなウエートを占めてきたとっております。

高度成長時代には、それに対して行政が様々な面で対応できていた時代があったと思います。しかしながら、今の時代では、なかなか行政だけでは、この地域で暮らせるような環境を十分にはつくっていけない状況になってきたというのがございます。また、我々も様々な事に取り組んできたと思いますが、やはり中央に比べて地方は交通インフラ等、不備な面が沢山あったという事を理由にして、地方はある意味では仕方が無いのだというところがあったかと思えます。

不幸にも2011年東日本大震災大津波災害の後にこの街を再生しなければならぬということ、交通インフラを初めこの地域の環境は非常に変わってきていると思っております。道路にしても三陸沿岸道路、宮古・盛岡横断道路をはじめ道路整備や北海道と岩手を結ぶフェリー航路の計画が実現に向かっていくというような状況など、様々な環境が変わってきています。

それらを利用しながら、いかに住民がこの地域で便利に豊かに暮らす事が出来るのか、あるいは、持続可能な地域がつくられていくのかという事を考えていかなければなりません。災害からの復旧・復興という事だけではなく、この地域のこれからのあり方を同時に考えていかなければならないと思っております。

今、宮古市では、交通のネットワーク化ということで、中心市街地の施設の整備事業に取り組んでいます。それは今ある市庁舎、あるいは中心となる施設を駅の周辺に集約して、地方からのその交通の便利さを生かそうとするものです。そして、盛岡に繋がるこの宮古を中心とした縦と横の道路、そして港を使った北海道、あるいは今後、都心に向かって考えられるような、基本的な環境整備をする必要があるだろうと思っ

ております。

それから、暮らしやすさという面におきまして、何十年も前から、福祉、健康、介護、教育など、様々な面で支援制度をつくりながらやってきました。しかしながら、人口の減少が避けられない状況であります。一番の大きなものは内陸と沿岸の所得格差の問題だと思えます。所得格差の問題を解消するためには、この地に働き場があり、働く事ができるということ、そして、所得をしっかりと確保できるということが大事なのではないかと思っています。そういう面において産業を考えたときに、地場の産業をしっかりと発展させることも大事ですし、環境を整備することによって企業を誘致してくるということも視野に、宮古市として取り組みを進めているところです。そして、それは概念的ではなくてデータを分析して現状がどうなのか、どこに力を入れて、施策をしていかなければならないのか考えなくてはならないと思います。今の時代は残念ながら、行政だけではどうしてもできない部分が沢山あります。官民一体となって住民と行政が協働で色々な事をやる。先ほど鈴木学長からもお話がありましたが、最初の参画の段階から、みんなで問題意識を持ち、進めていかなければならないのではないかと考えております。

宮古市は自治基本条例をつくって、参画と協働で市政を行っていくということで今、取り組みをさせてもらっています。まだ足りない部分もありますが、その辺も含めてこれから取り組みを強化していきたいと考えております。

**【新田】** どうもありがとうございました。今のご説明は、まず社会インフラを基本にして、生活を確かなものにしようというお話と産業政策についてのお話だったと思います。産業政策をしっかりとすることにより、地域の中に雇用を創出し、そこで働くことが可能になって初めてこれか

ら先、さらに格別なものになっていくというお話だったと思います。

今日の話はそういう意味では文化の話と産業政策の話、それから協働という3つがキーワードとなっていったと思います。まずは、先ほど学長からありました文化という話です。これから先、新しい考え方、新しい産業が生まれていく過程の中で、私たちの暮らしをどのように変えていくのかというのがポイントになると思います。

それから、いわゆる地方創生という事を考えた時に、宮古でどのような取り組みをしていくのかという事です。今、市長からもお話がありましたように、地方創生というのは、単語は確かにオリジナリティのあるものですが、これは宮古にかかわらず、高度成長期のあたりからずっと人口問題や所得格差については課題になっていたと思います。国全体で考えたときに、いわゆる先進国にキャッチアップするために何をすべきかを考え、他方、そこで得た富みを地方に還元することによって、それぞれ持ちつ持たれつに関係にあったと思います。それが、中央のほうの体力がだんだんなくなることにより、地方は自分たちでエンジンを持っていけないとそこに追いついていけない、という事に繋がっていくのだと思います。この点について少し会場の声を聞いてみたいと思います。

**【学生①】** 宮古短期大学部の学生です。今後の課題として、私の同級生でも宮古出身者は、ほとんど他県に就学するので、外に出ていった分を補う位の若者達を宮古市に呼び込むことが必要だと思っています。

**【学生②】** 宮古短期大学部の学生です。地方創生ということで、人が出て行く分、人を入れていくという事が大事だと思うのですが、その前に、宮古市で育った人達が働く時に出ていってしまわないように、まず現住人が一番住みやすい状況を整えることが大事だと思っています。そうする事で宮古に住んでいる人たちが、誇りを持てるような町にすることが

第一だと思います。

**【学生③】** 岩手県立大学総合政策学部の学生です。外からの観光客を招くのも、宮古市内が活気づいて地方創生に繋がるのではないかと考えます。さらにその観光を市民の方々も行政の方と一緒にすることで、地域のコミュニティも形成でき、また観光施設等の場所も賑わい経済的にも効果があると思うので、観光面について活性化させるというのも地方創生に繋がるのではないかと考えます。

**【新田】** ありがとうございます。この点につきましては、特に産業政策に強い植田先生にコメントをいただこうと思います。

**【植田】** 今、皆さんの発言された事は全くごもっともで、恐らく誰も反対していないのですけれども、何十年前から同じ話なのです。

働く場所をつくろうとか、もっと魅力のある地域になって観光客にたくさん来てもらいたい。問題はそのために、宮古市が一定以上の所得で、安定して働きがいのある仕事をどこでどうつくるのか。どういう産業だったら可能性があるのか、その産業だったらどうすればどれぐらい雇用が生まれるのか。あるいは観光は具体的にこれまでも随分取り組んできましたが、様々な意味で右肩下がりではあったけれども、ここまで食いとめていたというのはこれまでの市民の方たち、あるいは行政の活動なのです。

これを逆転させるためには、具体的に今言ったような課題について、宮古市は何ができ、何をすべきか、という事を考えていかなければいけません。抽象的な言い方ですが、鈴木学長と宮古市長が共通しておっしゃったことで、地域づくりを市民と一緒にやっていくという視点です。鈴木先生のお言葉に皆が准公務員になるというのが大事だという話がありました。受け身の形ではなく、目標を立てる段階から、その目標の

実現に向けた活動において、行政と市民、その他様々な団体が、知恵を出し合い一緒に動いていくという構図をさらに展開し、盛り上げていくという姿勢が宮古市の1つの文化になるのではないのでしょうか。「あそこは市民もいろんな団体が行政と一緒にあって地域づくりをして、自分たちの住みよい町をつくっているぞ」というのが、これから宮古市のひとつの売りになっていくと思います。その意味では、宮古市は自治基本条例があり、参画条例、協働条例があるわけですが、行政の姿勢も含め、市民の方の意識がこれからもっと変わっていかねばいけないなと思います。大震災という不幸な災害の後、市民の方々が地域復興ということで、共通の意識や問題を抱えている今の宮古ではできるのではないかと、そして地域の活性化に繋がるのではないかと思います。

【山本】 今、何人かの学生にお話をいただきました。まず若い人が帰ってくるのか、若い人をどういうふうに迎え入れるかですけれども、データのにもやはり学校に入る関係で、18歳から24歳ぐらいは、外に出ていく方々が多いのも実情であります。

そしてその後、就職をする時などに戻ってきたい人がいても、なかなか仕事がないという、課題はそこにあるのではないかと思います。地場産業の中では、やはり給料の問題や、自分が就きたい職がないというような場合もあるでしょうから、その辺をしっかりと手当てができるような状況をつくっていかねばならないと思っています。将来自分が好きなことをやりたい、しかしながら宮古に受け入れがない、あるいは、宮古に戻ってきたいのならば、どういう職業であれば戻ってこられるのか、と色々なタイプがあろうかと思っていますので、その辺を若い人たちと議論してみたいと思っています。

観光面に関しては、今この地域は三陸復興国立公園に指定され、三陸

ジオパークが日本ジオパークに認定されました。それらを含めて、これからこの地域の観光を考えていきたいと思っておりますし、宮古市はもてなし検定というのをやって、市外から来た方々に宮古の事ならば教える事ができる、という制度を設けておりますが、なかなか機能していない部分もあり、今後の課題だと考えています。また、今度、宮古室蘭間のフェリーが就航すれば、室蘭の背後は洞爺湖有珠山ジオパークがあります。これは世界ジオパークに認定された日本の中で8カ所の1つです。ですので、お互いに新たな観光の関係が生まれたり、修学旅行誘致の検討も出てきたりしています。ただ問題は、動いているが、十分に情報発信されていないという事です。これから皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

**【学生④】** 宮古短期大学部の学生です。フェリーはまた新しい宮古の商業の販路等になると思うので、これからいい方向に有効活用する戦略を考えることが重要だと思いました。

**【学生⑤】** 宮古短期大学部の学生です。観光の分野においては、宿泊率がまだまだ低い状況にあると思うので、そこをさらに伸ばす事が必要ではないかと感じました。

**【山本】** ありがとうございます。いつも色々な事に挑戦していただいでいて本当に嬉しく思っています。自分たちから積極的に色々なところに参加して、沢山の事を学んでいただきたいと思っています。様々なところで若い方の力を引き出し、そしてそれを取り入れながら我々も考えていきたいなと思っています。

**【鈴木】** 先ほど山本市長のお話で勉強した事がございます。それは、「高度成長期の頃は税収入が多く市町村も裕福であり、行政が住民に対してできた事が、今は低成長時代でなかなかできない」ということでした。

実は私たちも同じことを感じています。最先端の実験装置をつくろうとすると技術開発をしなければならない。30年前は、企業に提案すると、これは面白いと技術開発を引き受けてくれましたが、今は利益の出ない仕事は受け入れてもらえません。

今の市長さんのお話を聞いても、やはり低成長時代であることを実感します。そうであるなら行政と産業、住民がいかに関わるか、今までと違う方法を考えることが必要で、その思いを新たにしました。

次に、県立大学では、県内に就職しようという気持ちを助長するためもあり、学生による県内でのフィールドワークや復興支援ボランティア活動を行っているのですが、大半の出席者は1年生なのです。1年生の時に参加するのみならず、その後、大学で専門の勉強をしている時に、もう一度、参加することが重要だと思います。自分のやっている事がこれから先、社会にどう役立てるかを十分に自覚・認識することです。県立大学では今後、学生の種々の活動の役割・価値を再確認して、教育に反映させたいと思っています。

**【新田】** ありがとうございます。では、次に柴田先生お願いします。今イノベーションと言えば柴田先生というぐらいに色々な事に取り組んでいらっしゃるのですが、宮古でも実際にプロジェクトを走らせていますので、どういう事がポイントになるのかぜひ紹介してください。

**【柴田】** 地域連携本部長を務めさせていただいているのですが、そもそもソフトウェア情報学部の教員でございます。

私は、県立大学が開学したときに情報システムの担当をしていました。そのときに当時の西澤潤一初代学長より、とにかく県立大学の情報システムを日本一にしろという君命を受けまして、どこにでも繋がるようなネットワークの整備を行いました。繋がらない所は繋がるように説得し



て繋いで来い、という無謀な事もやりました。その時に当時の田老町に来て、遠隔の授業をやりとうという話が出まして、中学校の先生に交渉をしたら直ぐ了承を得て、それで私の知り合いが居る石川県の七尾市の中学校と田老の中学校を繋ぎました。自分たちでケーブルを引っ張ってやりましたし、国土交通省の光ファイバーを交渉しに行くと、貸してくれると言う事で、見事に色々な所を繋ぎました。そして、田老町からこの宮古短大、宮古短大から滝沢キャンパスに繋ぐ事で、ついに田老町と七尾市を繋ぐことが出来て、遠隔テレビ会議で交流ができました。何だ、やれば出来るじゃないかという実感を持っていました。

そういう時代を経て、この地方創生の時代になり、また、宮古市も災害があり、今度は産業などにICTがうまく使えるのではないかと、また、私たちが何かお手伝いできるのではないかとという事で、産学官連携の取り組みで宮古市の観光や防災を、全国ひいては全世界に発信しようとプロジェクトが始まりました。

プッシュ型と言いますが、自分から情報を見てくださいと相手に投げかける事が出来るようになった時代です。その様なものを使って、宮古市、田老の観光情報を発信しようと考えました。皆さんがデジカメやスマートフォンで写真を撮って、それをクラウドというサーバーに集め、それを発信する仕掛けが簡単にできるようになりました。そうすると、自分たちが宮古市でないと見られない、体験できない、そういう新鮮な情報が誰でも簡単に発信できるのです。逆に観光客の方からは、こういう所に行きたい、これも食べたい、ここに帰ってくるのに何時何分に行けばいいのかというような、動線で観光したいというような要求が出てきますので、集めた情報と場所と観光客の要望をマッチングさせるのです。そのマッチングさせるようなシステムを県立大学の我々が今つくっ

ていて、来年の4月からは本格的な情報提供サービスを田老で始めようとしています。

結局それは何の為かという、単に宮古市だけに観光客を集約するだけではなく、三陸ジオパーク、三陸復興国立公園や潮風トレイルなど豊富な資源をもつ三陸沿岸全体を世界に発信する為でもあります。世界に宮古市を発信して、世界から観光客を招き入れる事が出来るようになるという事です。

さらに例えば、最後に写真に撮った記録をみると、自分がどこを歩いて何をして、というアルバムが自宅に帰る間に出来てしまいます。そうすると、今度は「こういうルートを通って行きたい」という希望が出てきます。すると、宮古市だけではなく宮古を含んだ三陸沿岸、内陸、新幹線で来る人、飛行機で来る人、船で来る人、それぞれの人達に多様なルートで、旅行を提供できるのではないかと考えています。

産学公連携をすると、自分達だけでは出来ない事が出来るようになります。私はそれをイノベーションと言っています。イノベーションという言葉は変革・改革と訳されますが、そういう連携をすることによって新たにクリエイティブな仕事ができたり、アプリケーションができたりすると思います。その1つの成功事例をぜひこの三陸、宮古からつくっていききたいというのが私の思いです。

**【新田】** ありがとうございます。他に何かご質問ありますか。

**【一般①】** 宮古市内で医者をしている者です。私は学長先生の話で一番感心したのは文化がすごく大事だと。人間がいて、自然があって、科学があって、その真ん中に文化があるのですね。宮古に来て、人間と人間が、本当に目が見える関係にあります。そして自然との関係も調和がとれている。そういう所を大学としても我々としても、この宮古にはそう

いう素晴らしい所があるのだという、メッセージを流せば良いのではないかなと思います。

それともう一つ、若いうちからどうやって死ぬかではなく、どうやって有意義に生きるかというのをしっかり持てば、どうやって死ぬのかというのもわかるのではないかなと思うのです。その文化を醸成してほしいと思います。大体同じ年齢の同じ病気の高齢の女性の患者さんが2人居るのですが、1人はいつも胸がどうこう言っているのですが、もう1人の人は、お手玉を作ったり、絵はがきをかいたり、人のために何かやろうと考えている方なのです。ただ、全く同じ病気です。片方は本当にいつも心配していて、片方は本当に生かされていることに生き生きしているのです。ですから、若いうちから、人の為に関わって生きているのだということを醸成しておけば良い死に方ができるのではないかなと思います。

**【一般②】** 宮古市内の公務員です。柴田先生の共同研究や学生さんの発言、すごく嬉しく、そして頼もしく思いました。

昨日宮古高校に行きましたら、岩手大学の1年生の学生とお話する事ができました。この学生は宮古市役所にインターンシップをしに来ていて、ぜひ宮古に就職したいという強い思いで語ってくれました。これをもって、実は昨日150人ぐらいの宮高生のご意見に触れることができたのですが、私の地方創生の1つの結論は高校を卒業するまで、という事です。宮古を離れる前にどのような事が出来るかという事が、宮古に帰ってくるかどうかの勝負だと思っています。小学生の場合は小学校区、中学生は中学校区しか行動範囲がありません。高校になって少し行動範囲が広がりますが、宮古に魅力を感じないまま出ていってしまうのかなと、昨日までの若い人たちと触れ合う中で感じて参りました。

【一般③】 年齢は70代でございます。若い人達も大事ですが、ぜひ皆さんに意識していただきたいのは、70～80代の高齢の人達がすごいパワーを持っているということです。今までのプラス、マイナスの経験を持っている人達の意見も参考にしながら組み立てていければ、多分具体的な話もより進むのではないかと思います。

それから、観光など色々な話が出ていますが、今まで文化活動をしながらかと思いますのは、まず宮古の魅力を私たち宮古の人間が知る事からすべてが始まるという事です。「おもてなし交流観光都市」という標語が宮古にあるのですけれども、京都、金沢へ行っておもてなしという言葉は不要なのです。それくらいおもてなしをやっているところは自然にそれが出ています。ところが、宮古の場合におもてなしと言った時に、私達が宮古の事を知らなければ良いおもてなしができないと思うのですが、残念ながら私も含め宮古の事を皆が忘れかけているのではないかと危惧しております。

そういうことで、ぜひ宮古の魅力を高める意味でも宮古の文化、歴史というのをまずみんなで掘り下げて、実際に実行していく事が大事だと思っています。被災した中で心の癒し、心の豊かさ、そういったところに文化が繋がっているという事を、私たちはもう1度意識しながらやっていけば良いのではないかと思いますこのところです。

【山本】 ありがとうございます。今おっしゃったように確かに自分達のところをきちんと知らなければ、地域の良さというのを人に伝えられないというのは、全くそのとおりで、そのためにはやはり文化、伝統、歴史です。これらも含めてどうやってこの町ができてきたかというのをやはり皆で知りながら、そしてそれを伝えていくことも、観光の為には非常に役に立つのではないかなと思って、今ジオパークにしても長い歴史

の中をずっとさかのぼりながらきているところもありますので、もっと力を入れてやっていきたいと思っております。

**【植田】** 私、鎌倉の出身でございます。小学生の頃、私の記憶だと週に4時間「風土記」の授業がありました。例えば建長寺は北条時宗だよとか、あるいは妙本寺というのは比企一族のお墓があるとか、鎌倉の事が全部わかります。鎌倉の小学生は皆、風土記を読み、習うのです。ところが、宮古や、岩手に来て大学生に地元の話を知ると、みんな宮古の事を知らないのです。あまり学校で勉強していない、宮古の歴史とか文化を学ぶ機会がないのかなと。それで郷土愛を持つというのも難しいという事でもっと力を入れてやって頂きたいと思います。

**【鈴木】** 先ほどお年寄りをというお話がありましたが、若い学生の皆さんに、皆さんとお年寄りの合流が大事であることを言います。私たちの年代は、こうだからああであるという論理思考、すなわち垂直思考を叩き込まれました。ところが、その際にも、垂直思考だけではだめで、一見関係ないようなことを並べて、その中から新しいことを考え出す水平思考も大事であることが強調されました。ところが、今の皆さんは私たちと逆で、水平思考を無意識のうちに行っています。これはインターネットなどで情報が豊富にあり、何か考えるときにこれらの情報が横に並ぶのです。一方で、論理思考の方は苦手だと言わざるをえません。ですから委員会や会合などで、若い人とお年寄りの双方が一緒になると垂直思考と水平思考が混合して、良い考えが生まれると思います。この事を頭の片隅に置いて、時々、思い出して下さい。

**【新田】** 今、文化の話にずっと落ちついてきたと思うのですけれども、宮古に来て食事をするるとすごく美味しいなとよく思います。文化というのは食べて美味しいだけではなくて、多分それをどういうふうに表示す

るかというのが文化なのではないかと思います。



【写真1】金沢にて①（新田撮影）



【写真2】金沢にて②（新田撮影）

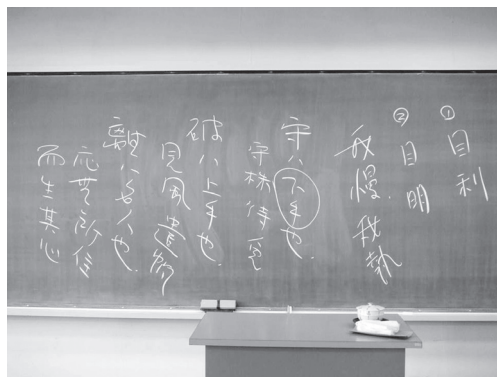
先ほど京都の話とか金沢の話があったので、少し紹介したいと思います。これは、金沢に行って食事をしたときの写真です（写真1）。金沢で食べる物は宮古とそんなに変わらないと思うのですが、このような形をつくれるかどうか、私たちの県でもう少し足すと文化になるところではないかと思います。実際どういうふうに食事をしているかというと、こんな風景なのです（写真2）。宮古の中にもこういうお店はあると思うのですが、こういうところで食事をする、ああ、また宮古に来たいなというふうに考えると思います。これが、文化というものを絵にしたときの実際の姿だと思います。文化というのはある意味無駄なことだと思うのですが、その無駄なことをどういうふうに表現するのかという意味で京都や金沢のようなところで参考になるものは、まだまだたくさんあると思います。

最後の1枚（写真3）は京都で撮った写真です。茶道の裏千家の研修に行ったときの写真なのですが、黒板に何が書いてあるかというと「守破離」というのが書いてあります。これは茶道を習うときの基本中の基本のものの考え方です。

「守」というのはまずは規則にのっとってどのような作法をすれば一番合理的なお点前ができるのか、これをまず知りなさいという教えです。「破」というのは、そうしたものを知った上で自分なりにアレンジしてみて、そして次のステップに行きなさいという教えです。最後の「離」は、少しアレンジができる段階が超えると、今度はそこから離れて自分なりの自由な発想でおもてなしをするという3段階があるのです。

宮古には色々なコンテンツがあるという話を共有ができたと思うのですが、そうした新しいコンテンツをこの「守破離」という考え方で見た場合に、既存のものを守るという意味で一般受けするものはどれが相当するのか。それから、そうしたものを少しアレンジして宮古は少し違うなと思ってもらえるものは何だろう。最後が一番難しいですが、写真1や2のように、何かすごいなというふうにも思ってもらえるものをどう表現するのか。この考え方は、茶道に限らずいろんなものに適応できると思いますので、文化とは何だろうということを考えるときにぜひ活用していければと思います。

本日はこれで終わりにしたいと思います。どうもありがとうございます。



【写真3】 京都にて（新田撮影）